



# Ruby・OSSによる地域情報の可視化と教育への応用に関する取り組み

## 活動内容

2015年度からスタートした実践的なプログラミングの学習と、これを活用するための情報経済・情報産業に関する学習を通じて、実社会の場で活躍することが高度な人材を育成することを目的とする特別副専攻「**Ruby・OSS履修プログラム**」の教育を通じて、地域情報を「**オープンデータ**」として可視化し、また「**オープンデータ**」を活用して地域社会の課題解決につながるアプリケーションの開発を学生と市民が協働で行い、成果をセミナーやシンポジウム、カンファレンス等で発表する。

## 目標 1

### 地域情報を Web で可視化する仕組みの教育

地域と協力して収集・分析したデータを地域のデータに位置情報を付加して Web で可視化する仕組みを（松江ソーシャルネットワークマップ）を活用して、地域社会で共有、課題解決に学生と市民が協働で活用できるようにする。

## 目標 2

### オープンデータを活用したアプリケーション開発

オープンデータを活用して地域社会の課題を共有、課題解決を考え、また学生と市民が協働で行うためのイベント、ハッカソンを開催してアプリケーション開発につなげる。

Ruby プログラミング教材も併せて開発



Ruby プログラミング  
情報産業論、情報経済演習

### 特別副専攻「Ruby・OSS履修プログラム」



情報と地域  
情報経済演習



Ruby・オープンソースの開発者、経営者、研究者による実践的な教育プログラム

松江ソーシャルネットワークマップ  
<http://map2.opendata-matsue.jp/>



松江歴史館の協力を得て、松江の歴史情報をソーシャルネットワークマップの地理情報と紐づけてオープンデータ化を進める。

### 松江歴史ハッカソンの開催



オープンデータを活用した街づくりにつながるアプリケーションのアイデアや開発を学生や市民の手で進めるイベント「**オープンデータ活用歴史ハッカソン in 松江**」を松江歴史館で開催（11月）、歴史情報を通じた街づくりのアイデア出しからそれをアプリケーションとして形にするまで取組む。

## 目標 3

### 教育・研究成果のセミナー・カンファレンスでの報告

教育・研究成果は、地域で開催されるセミナーやシンポジウムオープンソースカンファレンス等で発表する



オープンソースカンファレンス浜松（2016年1月）、同カンファレンスTokyo/Spring（2016年2月）等で島根大学の教育・研究成果の取組を報告

### アーバンデータチャレンジ 2015 最終審査



アプリケーション開発の成果がアーバンデータチャレンジ2015（（一社）社会基盤情報流通推進協議会等主催 東京大学空間情報科学研究センター「次世代社会基盤情報」寄付研究部門主催）で**学生奨励賞を受賞（学生部門最高）**